基本目標３
まちづくり分野 3-1

農業



農業の“いま”

農業用施設の老朽化

農業用施設更新箇所数
R5：33 か所→R7：45 か所

農業用施設の老朽化が進行しており、突発的な事故等による営農への支障が生じていることから、計画的な改修等を進め、施設の長寿命化と営農の安定化を図る必要があります。

農業従事者の高齢化

60歳以上　男68%、女74%

農業従事者の高齢化等により、農地や農業用施設の管理を生産者だけで担うことが困難になっていることから、集落等による管理体制を支援し、農地や農業用施設の持続的な保全を図る必要があります。

需要に応じた生産

2026 年 4 月
食糧法改正案を閣議決定

国が供給量や米価の安定化に向け「需要に応じた生産」を推進する中、ほ場整備事業等を進め、効率的かつ安定的な農業経営を図るとともに、担い手への農地集積を進める必要があります。

新規就農者の確保・育成

認定農業者数
R5：346 人→R7：317 人

農業従事者の高齢化や離農者の増加により担い手不足が進んでいることから、新規就農者への支援や経営継承を進め、農業の担い手を確保・育成する必要があります。

村上牛生産者の高齢化や後継者不足

生産者数　R3：15 人→R7：12 人

村上牛の出荷頭数は300頭前後で推移しているものの、生産者の高齢化や後継者不足が進んでいることから、村上牛ブランドの維持に向け、生産体制の安定化を図る必要があります。

有機農業の推進

国目標:2050年までに有機農業の取組面積を耕地面積の25%に拡大

国が、食料や農林水産物の生産力向上と持続性の両立をイノベーションにより実現するため、有機農業の取組を推進する中、本市においても、生産者個人の努力だけでなく、地域全体で支え合う仕組みを構築し、有機農業を推進していく必要があります。

有害鳥獣被害の拡大

捕獲数R5→R7
（猪：222頭→489頭、猿：283頭→316頭、熊：84頭→214頭）

有害鳥獣の出没増加に伴い、農作物被害の拡大や農産物の生産意欲の低下がみられることから、捕獲体制の構築や駆除負担の軽減を図り、被害防止対策を進める必要があります。

捕獲者の高齢化

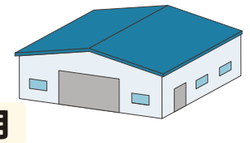
猟友会村上支部
65歳以上:84名/134名・平均年齢63.9歳

年々、有害鳥獣対策へのニーズが高まる一方で、捕獲者の高齢化が進んでいることから、有害鳥獣の捕獲を担う人材の確保・育成が急務となっています。

関連する総合戦略



将来に向けたチャレンジ



チャレンジ1

農業用施設の保全と農地の有効利用

- ●国のストックマネジメント事業を活用するなど、老朽化が著しい農業用施設の計画的な改修により、施設の長寿命化を図ります。
- ●日本型直接支払制度（中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払交付金）により、地域の共同活動を支援し、農地や農業用施設の保全を図ります。

チャレンジ2

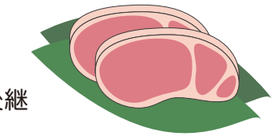
農業経営の安定化と担い手の確保



- ●生産コストの低減や園芸導入による産地づくりなど、ほ場整備事業を推進するとともに、国、県事業の活用をしながらICT等の先進技術によるスマート農業を推進します。
- ●新規就農者に対しては、国・県・市の各種補助制度を活用しながら、新潟県と連携したサポート体制により、就農相談から技術習得、経営定着までをきめ細やかに支援し、新規就農者の確保・育成を図ります。
- ●地域計画のブラッシュアップを重ねながら、地域全体で農業の担い手の検討を行ってまいります。

チャレンジ3

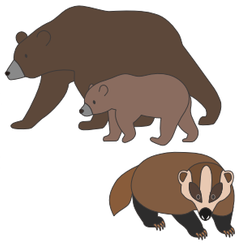
農産物のブランド維持と拡大



- ●ブランド維持に必要な出荷頭数の維持・向上と後継者に対する支援や新規就業者確保を図ります。
- ●有機農業実施計画の実践により国の支援を受けながら「オーガニックビレッジ」としての取り組みを進め、有機農業の拡大を図ります。

チャレンジ4

有害鳥獣対策の強化・拡充



- ●有害鳥獣対策の三本柱「被害防除」「環境整備」「個体群管理」を進めるため官民一体となった取り組みを進めます。
- ●集落支援員の活用により地域の環境診断を行い、地域ぐるみで効率的な対策を行います。
- ●ICT機器を活用し、有害鳥獣駆除従事者の負担軽減を図ります。
- ●有害鳥獣捕獲者の担い手確保を図るため、補助制度の充実を図ります。

関連する個別計画

市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン	QR	市有機農業実施計画	QR	市鳥獣被害防止計画	QR

令和13年度に
目指す姿

農地が守られ、
地域の景観や暮らしが
維持されていると感じる

：市民の実感

地元で働ける
選択肢として農業が
身近に感じる

資源や環境を守りながら未来につなげる持続的な農業づくり

若い農業者が
増えて、地域に
活気が生まれる

- 農業用施設の長寿命化により持続的で安定的な農業を図ります。
- 担い手確保・効率化の推進を図り農業人口の定着化を図ります。
- 有機農業を取り入れながら農産物のブランド化を図るとともに、農産物の魅力づくりや販路拡大を進めます。
- 獣害に負けないまちづくりを図り、安定的な農業経営を図ります。

作業負担が減り、
高齢になっても農業を
続けやすくなる

村上産の農産物を
市外でも見かける
機会が増え、うれしい



将来の
目標

目標1 農業産出額



現状値（R5）	目標値（R13）
199.7億円	210億円

目標2 新規就農者数



現状値（R7）	目標値（R13）
12人	15人

目標3 第1種免許(銃)取得による捕獲者数



現状値（R7）	目標値（R13）
134人	140人

将来に向けて
みんなで
できること



選ぶ たとえば …

直売所やスーパーなどで村上産の農産物を選び、購入・消費する

知る たとえば …

農業体験や地域の農業イベントなどに参加し、農業や食への理解を深める

参加する たとえば …

地域で行われる農作業や農業を支える活動に、できる範囲で参加する

守る たとえば …

農道や水路の清掃など、農地や農村環境を守る地域活動に参加する

あなたにできること・取り組みたいこと

◎私にできること・・